



2021年12月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2021年8月5日

上場会社名 株式会社ユニバーサルエンターテインメント 上場取引所 東
 コード番号 6425 URL <https://www.universal-777.com>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 富士本 淳
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役兼CFO (氏名) 麻野 憲志 TEL 03-5530-3055
 四半期報告書提出予定日 2021年8月5日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2021年12月期第2四半期の連結業績（2021年1月1日～2021年6月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年12月期第2四半期	28,618	△56.4	△8,763	—	△8,761	—	△16,928	—
2020年12月期第2四半期	65,647	24.9	12,666	—	7,330	—	3,410	—

(注) 包括利益 2021年12月期第2四半期 △8,391百万円 (—%) 2020年12月期第2四半期 6,277百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年12月期第2四半期	△218.47	—
2020年12月期第2四半期	43.87	43.86

(注) 1. 2021年12月期第2四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失金額であるため記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2021年12月期第2四半期	576,451	349,185	60.6	4,505.79
2020年12月期	568,502	357,577	62.9	4,614.09

(参考) 自己資本 2021年12月期第2四半期 349,126百万円 2020年12月期 357,519百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年12月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2021年12月期	—	0.00	—	—	—
2021年12月期（予想）	—	—	—	—	—

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無
 2021年12月期（予想）期末配当は、未定としております。

3. 2021年12月期の連結業績予想（2021年1月1日～2021年12月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	—	—	—	—	—	—	—	—	—

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2021年12月期2Q	80,195,000株	2020年12月期	80,195,000株
② 期末自己株式数	2021年12月期2Q	2,710,930株	2020年12月期	2,710,772株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2021年12月期2Q	77,484,148株	2020年12月期2Q	77,749,463株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(4)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) キャッシュ・フローの状況	3
(4) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
(5) 連結業績予想について	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(会計方針の変更)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(連結損益計算書注記)	10
(5) 追加情報	10
(6) 重要な後発事象	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

2021年12月期 第2四半期累計	売上高	営業損益	経常損益	親会社株主に帰属する 四半期純損益
個別(百万円)	14,921	△6,336	△5,572	△6,527
連結(百万円)	28,618	△8,763	△8,761	△16,928

遊技機事業においては、前四半期連結累計期間に、『SLOTバジリスク～甲賀忍法帖～絆』を「継承」し、6号機としての新たな要素を加えた『SLOTバジリスク～甲賀忍法帖～絆2』を48,505台、ユーザーやホールから高い評価を得ている沖ドキ！シリーズの最新作『沖ドキ！2-30』を47,059台販売したことなどから、合計で110,591台を販売しました。一方、当四半期連結累計期間においては、現在、市場で稼働しているパチスロ機の主要タイトル約60万台が、当連結会計年度の第4四半期から来期の第1四半期にかけて、入替が予定されていることから、当連結会計年度の当社の製品販売も、その期間に集中して主要製品タイトルを市場に投入する戦略に基づいて行っております。その結果、当四半期連結累計期間の販売台数は、前四半期連結累計期間の110,591台から32,137台となりました。

また、統合型リゾート(IR)事業においては、統合型リゾート施設「オカダ・マニラ」における新型コロナウイルス感染症の拡大防止を目的として、ゲーミング事業は座席数の30%を上限とし操業中なことから、売上高は減少しました。一方で、従業員の20%以上の人員削減を行い人件費が減少し、操業の制限に伴い販管費も減少しました。また円安ドル高の進行によって為替差益を計上、土地売買契約の解約による繰延税金資産の取り崩しによって法人税等調整額の計上を行っております。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間における売上高は28,618百万円(前年同期比 56.4%減)、営業損失は8,763百万円(前年同期 営業利益12,666百万円)、経常損失は8,761百万円(前年同期 経常利益7,330百万円)、親会社株主に帰属する四半期純損失は16,928百万円(前年同期 親会社株主に帰属する四半期純利益3,410百万円)となりました。なお、事業セグメント別の業績は以下のとおりであります。各業績数値はセグメント間売上高又は振替高を調整前の金額で記載しております。

①遊技機事業

当第2四半期連結累計期間における遊技機事業の売上高は13,982百万円(前年同期比 71.4%減)、営業損失は2,318百万円(前年同期 営業利益22,032百万円)となりました。

当第2四半期連結累計期間においては、新型コロナウイルス変異株の感染拡大の影響により、2021年4月25日以降、複数の都道府県に再度緊急事態宣言が発令されました。現在、一部を除き緊急事態宣言は解除されていますが、パチンコホールの集客は低調に推移しました。また、この状況を受け、パチンコ・パチスロ産業21世紀会において決議された旧規則機の撤去期限に対する決議内容について改定が行われ、旧規則機の撤去期限が2021年11月末から2022年1月末に2ヵ月間の延長となりました。現在のコロナ禍による集客・稼働回復の遅れ、旧規則機の撤去期限延長等により、パチンコホールの新台入替に対する慎重な姿勢は続いており、パチスロ・パチンコ機の市場供給は低調に推移しました。

かかる状況下で当社は、パチスロ機においては、株式会社アニプレックスの人気アニメとのタイアップ機『SLOTアルドノア・ゼロ』の導入、またパチンコ機では、パチスロ・パチンコ市場において人気の高いバジリスクシリーズから『Pバジリスク～甲賀忍法帖～2 朧の章』、『Pバジリスク～桜花忍法帖～』の導入を行いました。

②統合型リゾート(IR)事業

当第2四半期連結累計期間における統合型リゾート(IR)事業の売上高⁽¹⁾は14,098百万円(前年同期比 12.4%減)、営業損失は2,017百万円(前年同期 営業損失5,265百万円)となりました。また、当第2四半期における調整後EBITDA⁽²⁾は875百万円(前年同期 △1,323百万円)となりました。

当社グループが運営する統合型リゾート施設「オカダ・マニラ」のあるフィリピンでは、2021年3月頃から新型コロナウイルス変異株による感染者の急増により一時経済活動が停止しました。その後、感染症拡大の影響が軽減され、経済活動が再開しました。現在、マニラ首都圏は2021年3月以前と同様のGeneral Community Quarantine(一般的なコミュニティ隔離措置)となっており、「オカダ・マニラ」は規制緩和による政府のガイドラインを遵守し、一部営業を再開しております。

(1) 売上高は、総売上高からゲーミング税及びジャックポット費用を控除したものです。

(2) 調整後EBITDA = 営業損益 + 減価償却費 + その他の調整項目

③その他

当第2四半期連結累計期間におけるその他の売上高は448百万円（前年同期比 30.9%減）、営業損失は72百万円（前年同期 営業利益221百万円）となりました。

メディアコンテンツ事業においては、月額制サービス「ユニバ王国」のiOS版で『サンダーVライトニング』『アナターのオット!?はーです』の2機種を配信し、全6機種となりました（Android版では38機種）。また、ソーシャルカジノゲーム「スロットストリート」では、株式会社パイオニアのパチスロ機をモチーフにした「プレミアムハナハナ」と、株式会社セガの『セガNET麻雀 MJ』をモチーフにした「MJ～昇龍version～」を配信し、全47機種になりました。いずれのコンテンツも、新機種を定期的に追加することで既存会員の継続意欲の向上に努めております。

(2) 財政状態に関する説明

総資産の額は、現金及び預金の減少、持分法適用会社への貸付金の一部返済による減少、持分法適用会社の株式売却、土地売買契約の解約による繰延税金資産の取り崩しによる減少があった一方、建設投資に伴う建設仮勘定の増加、持分法による投資利益の増加による関係会社株式の増加、円安ペソ高の進行に伴う有形固定資産の増加により、前連結会計年度末に比べて7,949百万円増加し576,451百万円となりました。

総負債の額は、長期借入金の返済による減少があったものの、社債の発行分の一部前倒し入金、円安ドル高の進行による社債、短期借入金、長期借入金の増加、円安ペソ高の進行に伴うリース債務による固定負債の増加もあり、前連結会計年度末に比べて16,341百万円増加し227,266百万円となりました。

純資産の額は、利益剰余金が親会社株主に帰属する四半期純損失の計上により減少した一方、為替換算調整勘定が円安ペソ高もあり増加したことから、前連結会計年度末に比べて8,392百万円減少し349,185百万円となりました。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物の残高は、減価償却費、支払利息・社債利息の計上や、社債の発行による収入等により増加した一方、建設工事に伴う支出（有形固定資産の取得による支出）、社債やリースによる利息の支払により減少したこともあり、前連結会計年度末に比べて11,585百万円減少し、25,547百万円となりました。また、当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況及び主な増減要因は次のとおりであります。

＜営業活動によるキャッシュ・フロー＞

営業活動によるキャッシュ・フローは、10,593百万円の支出となりました。これは、主に税金等調整前四半期純損失14,192百万円、減価償却費9,000百万円、支払利息・社債利息を5,143百万円、及び利息の支払額2,974百万円によるものです。

＜投資活動によるキャッシュ・フロー＞

投資活動によるキャッシュ・フローは、3,479百万円の支出となりました。これは、主に有形固定資産の取得による支出3,760百万円、短期貸付金の回収による収入957百万円によるものです。

＜財務活動によるキャッシュ・フロー＞

財務活動によるキャッシュ・フローは、1,842百万円の収入となりました。これは、主に社債の発行による収入3,918百万円、長期借入金の返済による支出1,094百万円、短期借入金の純増減額577百万円によるものです。

(4) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

①遊技機事業

遊技機業界では、日本国内において新型コロナウイルスワクチン接種が進み、パチンコホールの集客や稼働が徐々に回復へ向かうことが予測されます。また、旧規則機の撤去期限が近づくにつれてパチンコホールの新台入替に対する購買意欲は高まるものと見込んでおります。

第3四半期の見通しとして、パチスロ機においては、市場において根強いファンの多いハナビシリーズ最新作『新ハナビ』の導入、及び現在もユーザーやホールから高い評価を得ている「魔法少女まどか☆マギカ」の最新作『SLOT劇場版 魔法少女まどか☆マギカ[前編]始まりの物語／[後編]永遠の物語』の導入を開始しております。パチンコ機においては、株式会社バンダイナムコエンターテインメントの不朽の名作ゲームをモチーフとした『Pナムコレクション』シリーズの販売を開始しております。なお上記のパチスロ2機種は完売し、かつ第3四半期連結会計期間内のすべてのパチスロ販売予定機種の中で上位の導入台数を予定しており、当社第3四半期以降の販売台数は、当第2四半期連結累計期間の販売台数を大きく上回る台数を見込んでおります。

当社は引き続き、独自性のある魅力的な遊技機創出に努めてまいります。またその魅力ある遊技機を通して、遊

技機業界全体の活性化に貢献してまいります。

(ご参考) 2021年12月期 パチスロ・パチンコ販売台数

	第1四半期	第2四半期	第3四半期(受注済)	第4四半期
販売台数(台)	12,708	19,429	49,420	未定

(注) 第2四半期までの実績については、「2021年12月期 第2四半期決算補足資料」
(<https://www.universal-777.com/corporate/ir/library/result/>) をご参照ください。

②統合型リゾート(IR)事業

新型コロナウイルス感染症の影響は依然終息しておりませんが、一定の制限のもと一部営業を継続しております。ゲーミング事業においては、フィリピンカジノ運営公社PAGCOR(Philippine Amusement and Gaming Corporation)からの規制緩和により座席数の30%を上限とし、ホテルについては、観光省DOT(Department of Tourism)より、客室数100%での営業再開の許可を得ました。また飲食事業は、貿易産業省DTI(Department of Trade and Industry)より、マニラ首都圏の飲食店での店内飲食の営業活動制限が座席数の50%超まで解除されました。「オカダ・マニラ」では引き続き、感染防止の観点から衛生管理を高い水準で維持してまいります。

③その他

メディアコンテンツ事業においては、引き続き高品質なシミュレータアプリや楽曲の配信を行ってまいります。月額制サービスの「ユニバ王国」及び基本プレイ無料のソーシャルカジノゲーム「スロットストリート」では、コンテンツを拡充することで、新規会員の獲得や既存会員の満足度向上に努めてまいります。さらには、各種ゲームプラットフォームへの展開並びにコンテンツのライセンスアウトを積極的に行ってまいります。

(5) 連結業績予想について

当社は、2021年12月期の連結業績予想を未定としております。なお、業績に重要な影響を及ぼす統合型リゾート施設「オカダ・マニラ」を運営するTIGER RESORT, LEISURE AND ENTERTAINMENT, INC. の2021年12月期第2四半期実績(速報値)を開示しております。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	37,349	25,775
受取手形及び売掛金	7,369	8,023
有価証券	2	2
商品及び製品	2,367	3,197
仕掛品	11,866	13,210
原材料及び貯蔵品	9,653	9,283
その他	15,591	13,400
貸倒引当金	△2,599	△2,709
流動資産合計	81,601	70,184
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	260,664	268,964
建設仮勘定	70,346	77,327
リース資産(純額)	54,889	56,683
その他	37,417	36,335
有形固定資産合計	423,317	439,311
無形固定資産		
その他	1,969	1,871
無形固定資産合計	1,969	1,871
投資その他の資産		
投資有価証券	16,762	17,984
長期預け金	6,413	6,851
関係会社長期預け金	25,125	26,849
その他	13,038	13,277
貸倒引当金	△696	△709
投資その他の資産合計	60,644	64,253
固定資産合計	485,931	505,436
繰延資産	969	830
資産合計	568,502	576,451

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	5,960	6,982
短期借入金	10,927	5,530
1年内返済予定の長期借入金	2,070	2,765
1年内償還予定の社債	—	13,856
未払金	9,247	10,583
未払費用	15,484	17,817
未払法人税等	463	20
賞与引当金	81	490
その他	13,125	14,531
流動負債合計	57,361	72,579
固定負債		
社債	78,720	70,586
長期借入金	7,141	11,503
退職給付に係る負債	167	221
関係会社長期預り金	5,175	5,530
リース債務	59,209	62,746
その他	3,148	4,097
固定負債合計	153,563	154,686
負債合計	210,924	227,266
純資産の部		
株主資本		
資本金	98	98
資本剰余金	18,829	18,829
利益剰余金	346,478	329,550
自己株式	△7,317	△7,317
株主資本合計	358,088	341,160
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△27	△33
為替換算調整勘定	△631	7,907
退職給付に係る調整累計額	88	93
その他の包括利益累計額合計	△569	7,966
新株予約権	58	58
純資産合計	357,577	349,185
負債純資産合計	568,502	576,451

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年6月30日)
売上高	65,647	28,618
売上原価	26,690	16,428
売上総利益	38,956	12,189
販売費及び一般管理費	26,290	20,953
営業利益又は営業損失(△)	12,666	△8,763
営業外収益		
受取利息	63	52
受取配当金	16	7
持分法による投資利益	709	690
為替差益	—	4,476
その他	65	65
営業外収益合計	855	5,291
営業外費用		
支払利息	2,099	2,218
社債利息	3,053	2,924
為替差損	912	—
支払手数料	14	6
その他	110	139
営業外費用合計	6,191	5,289
経常利益又は経常損失(△)	7,330	△8,761
特別利益		
固定資産売却益	7	—
その他	5	0
特別利益合計	13	0
特別損失		
固定資産除売却損	2	489
臨時損失	3,886	4,755
その他	—	185
特別損失合計	3,888	5,431
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	3,454	△14,192
法人税、住民税及び事業税	452	13
法人税等調整額	△408	2,721
法人税等合計	44	2,735
四半期純利益又は四半期純損失(△)	3,410	△16,928
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	—
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	3,410	△16,928

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年6月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	3,410	△16,928
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△181	△6
為替換算調整勘定	3,047	8,538
退職給付に係る調整額	△0	4
その他の包括利益合計	2,866	8,536
四半期包括利益	6,277	△8,391
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	6,277	△8,391
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	3,454	△14,192
減価償却費	9,152	9,000
持分法による投資損益(△は益)	△709	△690
有形及び無形固定資産除売却損益(△は益)	△5	489
受取利息及び受取配当金	△80	△59
支払利息	2,099	2,218
社債利息	3,053	2,924
為替差損益(△は益)	△999	△4,135
売上債権の増減額(△は増加)	△1,452	△363
たな卸資産の増減額(△は増加)	1,044	△1,715
仕入債務の増減額(△は減少)	1,082	1,164
未払消費税等の増減額(△は減少)	1,364	△2,413
未払金の増減額(△は減少)	△1,271	706
その他の流動資産の増減額(△は増加)	△1,760	102
その他の流動負債の増減額(△は減少)	△2,332	△1,011
その他	1,490	754
小計	14,131	△7,222
利息及び配当金の受取額	82	59
利息の支払額	△2,630	△2,974
法人税等の支払額又は還付額(△は支払)	△437	△456
営業活動によるキャッシュ・フロー	11,145	△10,593
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△8,301	△3,760
無形固定資産の取得による支出	△192	△110
投資有価証券の取得による支出	△5	△214
投資有価証券の売却による収入	—	683
短期貸付けによる支出	△2,501	—
短期貸付金の回収による収入	1	957
長期貸付けによる支出	△1,352	△59
長期貸付金の回収による収入	670	15
その他	91	△990
投資活動によるキャッシュ・フロー	△11,590	△3,479
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	4,830	△577
長期借入金の返済による支出	△108	△1,094
社債の発行による収入	—	3,918
自己株式の取得による支出	△1,752	△0
セール・アンド・リースバックによる支出	△341	△340
その他	△16	△64
財務活動によるキャッシュ・フロー	2,611	1,842
現金及び現金同等物に係る換算差額	△16	644
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	2,150	△11,585
現金及び現金同等物の期首残高	38,226	37,133
現金及び現金同等物の四半期末残高	40,376	25,547

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

該当する事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(連結損益計算書注記)

(臨時損失)

当社グループの連結子会社TIGER RESORT, LEISURE AND ENTERTAINMENT, INC.において、新型コロナウイルス感染症の拡大防止を背景とした、フィリピン政府や、フィリピンカジノ運営公社PAGCOR (Philippine Amusement and Gaming Corporation)の要請に基づき、統合型リゾート施設「オカダ・マニラ」が営業停止した期間の固定費(減価償却費等)を、特別損失に計上したものです。

(5) 追加情報

(借入費用の取得価額算入)

統合型リゾート(IR)事業に要した資金のうち、その建設資金を借入金及び社債(私募債)により調達している長期プロジェクトで、かつ、その金額が重要なものについては、建設期間中に対応する借入費用を取得価額に算入しております。

(6) 重要な後発事象

当社は2021年6月25日付の取締役会の決議に基づき、2021年7月2日に社債を以下の条件で発行しております。

株式会社ユニバーサルエンターテインメント2021年追加発行海外私募債：

1. 発行総額：143百万米ドル
2. 発行価格：額面価格の102%
3. 利 率：8.5%
4. 償還期限：2024年12月11日
5. 資金使途：既存社債償還及び一般事業資金
6. 償還方法：満期一括償還

また、当社は2021年6月25日付の取締役会の決議に基づき、上記の2021年追加発行海外私募債を原資として、2021年8月2日に以下の社債の期限前償還を行っております。

1. 目 的：当社グループの資金繰りを改善し、流動性を確保する
2. 償還対象社債名：2021年満期米ドル建普通社債6億米ドル
3. 償還対象元本金額：118百万米ドル
4. 償還金額：125百万米ドル
5. 社債の減少による支払利息の減少見込額：3.6百万米ドル